

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：大場勝雄 幹事：桜井健太郎

情報委員長：米沢修一

1981・8月6日

第196号

“私の国際交流”

金沢女子短期大学文学科教授

金沢南RC会員 山本 茂氏

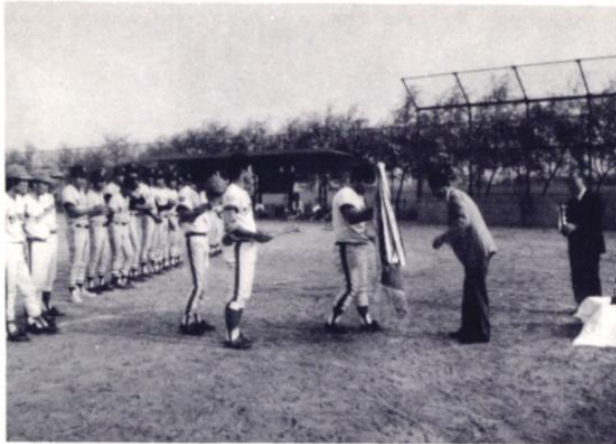


我々は日常、同じ日本人でありながら人と人との交りがいかに難しいかよく理解している。まして国と国との交際、外国人との付き合いが難しいと思うのは当然である。それは国民性の違いだと一般的によく言われる。では国民性とは何んであるか。

夫々の国には固有の歴史的背景がある。又自然的な影響も違う。又、それらを踏まえた文化的な思想も大きく違っている。アメリカという国を見た時、何を行うにしてもあの自然と対決し、自然を征服しなければ事が進まないという現実がある。それに反して我々の自然に対する態度は徹頭徹尾、自然とどの様に調和させるか、自然を我々の生活の中へいかにしてくみ込んでいくかという考え方である。宗教にしても十字架が示している様に人の苦しみを背負ってしてくれるという人間味はこの世の中に存在しつつこの世のとは別の世界へと導く仏教と明らかに違う。文学の世界はどうだろう。世界の一大文学となるものは三つのWの要素がある。War(戦争)、Wine(酒)、Woman(女)でありこの要素が文学の価値につながっている。しかし我が国では、月・花・雪など静的な要素がないと日本的文学にはならない。

この様に国民的な相違をお互いいかに理解するかにつきる。日本人は日本流で……は通じない時代である。人間的な考え方は同じでもその表現が大きく違うということを認識することが国際交流としての現点ではなかろうか。

—金沢北RC例会講話から— (文責 米沢修一)



表彰式



優勝の石川トヨベットチーム

ロータリーニュース

5RC後援 訪韓親善少年サッカーチーム結団式

当クラブが窓口となり、韓国側との折衝も完了して、大徳少年サッカーチーム20名及び父兄、関係役員等、50名に近い一行の結団式が山岸北RC副会長を派遣団長として、7月30日(木)、ホワイトハウスにて行われました。本年の国際RCのターゲット「ロータリーを通じての国際理解と平和」を文字通り実現出来る親善使節としての役割は大きく期待され、又、我々の計画に終始絶大の支援協賛を惜しまなかった韓国南光州RCとの友好関係も一段と緊密化するであろう。

チームは8月21日小松空港を出発し、22日ソウル市、23日光州市にて交歓試合を行い、24日小松到着の予定で当クラブからの会員の多数の自由参加をお願い致します。(少年チーム団員は、ソウル市、光州市にて民泊予定)

国際奉仕委員会



職業奉仕炉辺会合

7月17日、石丸委員長宅に13名が集り、目前に迫っている職場親善早朝野球大会の説明、つづいて、今年度からこの会合に出席することになった新入会員の職業の話、又今年度の職場訪門をどこにするか、なごやかに話合った。

出席者 大場、山岸、大村、桜井、柴田、池島、塩村、笠間(恒)、佃、中西、磯貝、笠間(正)、石丸。



ジュディさん さようなら！

当クラブをホストとして、アメリカより来沢の交換学生、ジュディ・ピアンキさんは、一年間の星稜高校留学を終えて、8月7日、思い出多い日本を後に、故国へ旅立つこととなった。

7月23日、当クラブでは、お世話になった星稜高校々長稲置氏、西川・吉藤両先生はじめ、在沢中の寄宿のお世話をした、大村・土原・木下・本岡の四御夫妻を招いて、本多町石亭にて、送別の宴を催した。一年間で習得した日本舞踊二題、琴演奏など、浴衣姿も艶かに演じた彼女に、絶讃の拍手が湧き皆で流しそうめんに打ち興じて、国境を越えて別れの名残りを惜しんだ。

(国際奉仕委員会 飯野記)



皆さんこんにちわ。ジュディ・ピアンキです。みなさまにかんしゃのきもちをこめて、ごあいさつもうしあげます。

皆さまのくにで1ねん間をすごさせていただきました、ほんとうにありがとうございました。とてもすばらしい1ねんでした。私はけっしておすれることはないでしょう。

時のたつのははやくて、日本へついたのがまるできのうのようです。まったくなにもわからなかった私でしたが、今では日本についていろいろなことをまなびました。

私はほかのこうかんがくせいたちとおなじように、日本についてほとんどちしきをもたないでこちらへやってきました。でも、皆さまにしんせつにいただきました、この1ねんでたくさんのおぼえました。アメリカやヨーロッパではできないようなこともいろいろけいけんしました。また、日本語はもちろんのこと、日本ぶようやおこと、いけばなそしてしゅうじやそろばんもならいました。

私はちいさいころからがいこくりょこうやがいこく語にたいへんきょうみがありました。それでロータリーのこうかんがくせいのプログラムについてきいたとき、私はすぐにおうほしました。

さいしょはヨーロッパへ行こうとおもっていたのですが、今は日本へきてほんとうによかったとおもっています。ゆめがかなったいま私はとてもしあわせです。

ロータリーのこうかんがくせいにえられることは、たいへんめいよなことですし、このせいどはがいこくにきょうみをもつがくせいにとってじつにすばらしいせいどです。こうしたせいどをとおしてせかいのひとびとがそうごりかいをえられるのだと思います。

また、いろんなかぞくのかたがたといっしょにせいかつすることによって、日本のせいかつようしきのいろんなめんをすることが出来ます。たんなるりょこうしゃにはけっしてわからないふかいめんをみることもできました。ゆうめいなかんこうちだけを見てまわるのと、じっさいにせいかつた



いけんをするのとはおおきなさがあります。そしてせかいのいろんなくにのひとびととまじわることは、ちしきをひろめることにおおいにやくだち、にんげんをせいちょうさせます。

さて、私はがっこうへかようことによって日本のきょういくのおおくのめんをしりました。日本のがっこうはいろんたんできびしく、そくばくされることが多いようです。アメリカのがっこうはよりじゆうなめんがおおいので私にはどうしてもなじめないこともありました。しかし、こうしたきびしさは日本とアメリカのりょうほうのくにのきょういくシステムのそれぞれのよいめん、わるいめんをしめしてくれます。

かていせいかつ、がっこうせいかつをとおして、私は日本のひとびとにたいへんしんせつにさせていただきました。私がかまっていたとき、日本のひとたちはとてもしんせつていねいに、私をたずけてくださいました。私があったひとびとはふつうがいじんにはなしかけることにきょうみをもっていました。これはたいへんよいことだとおもいますし、私もそうされるのがうれしいのです。

でも、日本ではがいこくじんがなじめないものもすくなくはありません。

すなわち、アメリカではどんなひとでもひかくてきかんたんに、アメリカじんになりきることができそうなきがしますが、日本じんになりきれるのは日本じんだけのようです。日本はたいそうユニークなところなのです。

(中 略)

金沢にかんして、もっともすばらしいことのひとつは、きものすがたの人をまちかどでよくみかけることです。かなざわは私にとってとてもすてきなまちでした。私は、じんこう5せんにんくらいのおちいさないなかまちからやってきました。ですから、このようなおおきなまちにすむことは、とてもきょうみぶかいことです。でもけっしておおきすぎるまちではありません。

私は、やまやかかわやはらをすぐまじかにみることで、とてもきがやすまりました。また、金沢は、ふるい日本のでんとうをうけついでいるまちのようです。そしてどうじに、私たちわかものがたのしむのに、じゅうぶんモダンでもあります。日本をたいけんするには、これいじょうのまちはないでしょう。日本のほかのどこよりも、ここ金沢でいちねんをすごすことができ、とてもこううんだと思っています。私はとくにおせわになった4かていのみなさまに、とりわけかんしやをもうしあげたいとおもいます。

さいごに、このすばらしい1ねんかんにたいしてもういちど、おれいをもうしあげます。みなさまは日本人がせかいでもっともしんせつで、かんだいなこくみんであることを私たちにしめしてくださいました。ほんとうにながいあいだ、ありがとうございました。



